

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日, 令和2年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kiho_n=true&JigyosyoCd=0170401806-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 所在地, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 訪問調査日, 令和元年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても今までの暮らしの延長として地域の中で今出来る事を生かし、生活の中に役割を持ってごく普通の生活の場として一人一人の意思を尊重し家庭的な関係と雰囲気の中で生活が継続される様心がけている。スタッフ間で意見交換をしやすくし、それぞれの得意な事を活かし資格取得や研修を受けやすい様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バス停から5分程の閑静な住宅街に位置し、幼稚園、病院、銀行、郵便局、スーパー等が点在し快適な暮らしを保ち、更に、手稲の山々が見渡せ、緑豊かな公園や河川にも近く、四季の移ろいが楽しめる恵まれた環境にある。事業所は、木の温もりに癒されるログハウス風な2階建ての建物で、ゆったりとした造りになっており、リビングは明るく開放的で、足元から暖まる床暖房は空気もクリーンで安全性も高く、心地よい共有空間となっている。開設から14年目を迎え、職員は常に、理念の1節にある「地域に根ざし、共に笑顔でゆったりと」をケアサービスの根幹として浸透させ、実践に繋げている。一人ひとりに残された機能を最大限に活かせる様に、そろばんやドリル、ぬり絵、掃除、調理準備など、利用者の出来る事は可能な限り行動して頂き、生活そのものがリハビリになる様な自立支援を行っている。管理者を始め、長期勤続者や有資格者の職員が多く、利用者、家族との信頼関係も深まり、安心な暮らしの継続を生み出している。管理者もサマータイム導入を提案し、職員の就業環境の整備に努めている。防災面では、昨年の震災から得た教訓を忘れずに、火災、水害、地震災害訓練を実施し、全職員が訓練を経験出来る様に自主訓練も重ねるなど、防災意識を高め取り組んでいる。家族とは通常の来訪に加え、敬老会やクリスマス、運営推進会議に参加頂き交流を深め、事業所からは、月1回の便りで利用者個々の暮らしぶりや健康状態を詳細に伝える事で、利用者を家族と共に支えていく関係性を大切にしている。利用者は夏祭りや新年会等の町内会行事への参加や幼稚園児との心とむ交流など、職員は開かれた環境を作り、笑顔で穏やかな暮らしが営まれる様に支援している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに掲げ共有しケアプラン作成時に実践に繋げ職員が意見交換し日々活かしている	理念の1節である「地域に根ざし、共に笑顔でゆったりとした生活を送る利用者の姿が暮らしの中に見出す事が出来、常に管理者、職員は理念に沿った基本支援を行う事として浸透している。介護計画作成時、新人研修、勉強会で理念を振り返り、支援のあり方を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や近隣との交流を行い地域との連携に心掛けている	町内会行事の夏祭りや新年会への参加、ゴミ捨てや散歩、回覧板を届ける際には近隣住民と挨拶を交わし交流を深めている。定期的に来訪する幼稚園児との触れ合いは利用者の心を和ませている。実習生の受け入れ、研修場所の提供など、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで認知症サポーター養成講座の研修の場を提供し地域に向けて活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議で意見をお聞きし、意見をスタッフで共有しサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族などの参加を得て、事故やヒヤリハットの分析、外部評価の結果報告に加えて、身体拘束廃止の適正化についても話し合うなど、事業所の透明性を図り乍ら、参加者の意見や助言を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	統括部長や管理者が連絡を取っている	行政とは主に本社の統括部長が中心となり対応しているが、管理者は昨年、区の管理者代表を担い、市や区の管理者会議や集団指導に参加し、協働関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チェックリストや会議、全員参加会議の中でも取り組んでいる	身体拘束廃止適正化の指針を定め、委員会は主として運営推進会議内で開催している。2か月毎に自己チェックリストを活用し、身体拘束の弊害について理解を深めている。特にグレーゾーンについて学ぶ機会を設け、身体拘束の無いケアに努めている。マニュアルを整備し、玄関は防犯上、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリスト等を使用し研修などに参加するなどグレーゾーンを学び防止に努めている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ事などを共有し理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分からない事等があればいつでもご相談できるように言葉掛けて聞きやすくし対応に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やご来訪時に会話をし言いやすい雰囲気作りをしてその内容を共有し反映に活かしている	敬老会やクリスマス行事を始め、家族の来訪が多く、その際に管理者、職員は丁寧に話を聞き、家族の意見や希望を運営に反映させている。毎月発行の事業所便りは、2ユニット合同の写真掲載に加え、個別対応で、日常の様子や診療結果も報告し、家族の安心に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や毎月のユニット会議で意見や提案を聞き反映させている	毎月のユニット会議、年2回の管理者による個人面談、夜勤者以外は全員参加の全体会議や説明会等で意見や提案を汲み取り、運営に活かしている。管理者の発案でサマータイムを実施するなど、働き方改革に努めている。本社の統括部長の訪問も多く、直に相談する機会も有り、職員は各係を担い、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個別面談と全体会議や説明会を行い新しい事も取り入れながら整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加しやすい協力体制作りと一人一人の得意な事を発揮できるようにしており実践に活かせる様に心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敬老会などの催しものなど、他事業所などに声を掛け交流を図っている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価			外部評価					
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援											
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の望むことをコミュニケーションや情報収集し安心できる様務めている								
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安が軽減、解消できる様、会話や接し方を行うよう努めている								
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人とお話して気持ちに沿いつつ今必要な支援をしている								
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここを我が家としてスタッフも家族の一員のように思い思われるような関係を築き共に生活している								
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状を都度お伝えし、思いを取り入れながら柔軟に対応できるように心がけている								
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との思い出や、時にはアルバムを見ながら会話したり、同僚だった方やご近所だった方との関係を継続している。						元職場の同僚の訪問を受ける利用者も居り、居室でゆったりと過ごせる様に配慮している。利用者が出来るだけ地域や人と接点を持てる様に、郵便局、大型スーパーでの買い物、年賀状のやり取りなど支援している。外食、帰省、墓参り、馴染みの美容室には家族の支援を得ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが会話のきっかけ作りをし、皆で楽しい時間が送れる様支援している								

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベントのお知らせや年末年始のご挨拶、ご近所の方が多いので立ち話や相談など応じている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を尊重し自己決定できるような声掛けや環境作りを心掛けている	自立者が多く、職員は理念に沿って、その人らしい生き方や豊かな生活が出来る様に、利用者の希望や意向を受け止め支援している。生活歴や職歴など、家族から情報を収集して検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集や普段の会話などから把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わりを持ちスタッフ間で情報を共有し現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族のニーズを基本とし、意思に添える様計画作成している	毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、新たな気付きを共有している。本人、家族の意向、必要に応じて医療関係者の意見を加えて、計画作成担当者を中心に全職員で協議、評価し、3か月毎に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残しスタッフ間で情報共有しながら介護計画に基づいた支援に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意思を尊重し無理なく柔軟にサービス提供できる様に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や地域の幼稚園との交流など楽しめる様心がけている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の心身状態を観察しかかりつけ医との情報共有に努めている	現在は1名を除いた全利用者が、24時間対応の協力医療機関を主治医とし、月2回の往診を受けている。かかりつけ医や専門医への受診は基本、家族支援としている。歯科医は希望に応じて往診対応であり、週1回訪問の看護師とは、常に利用者の情報を共有し、連携が図られている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など相談しすぐに医師に連絡してくれ指示を仰ぐ事が出来ており常に情報共有を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	連絡やご本人の様子を見に足を運ぶ事で関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これから起こり得る事を把握し医師からご家族様へのお話をして頂きご本人の言葉とご家族様の希望など考慮し慎重にかつ柔軟に取り組んでいる	医療連携体制、看取り体制が整備されており、入居時に利用者、家族に対応指針を説明し、同意を得ている。事業所では看取りに近い状況は経験しているが、状態変化に応じた家族との話し合いの中で、主治医の判断の下、医療機関への移行が殆どである。管理者は改めて終末期支援における知識や技術、倫理観の習得など、職員育成の研修を重ね、体制の整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	忘れる事の無い様に講習会やスタッフ間で確認をしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域的に危機感を持ち様々な災害を想定した訓練をしている	今年度は、消防署指導の下に、火災と水害避難訓練を夜間想定で年2回実施している。更に、全職員が避難訓練を体験出来る様に自主訓練を重ねている。地域住民の協力は高齢化に伴い厳しいが、近隣に居住している職員が駆けつけている。備蓄品を確保し、一時避難場所の承諾も得ている。	事業所として万全の災害対策を心がけているが、避難訓練は重ねる毎に課題や疑問が抽出されるので、火災に加え、あらゆる自然災害、停電、断水や利用者の様々な居場所(トイレ・浴室・居室・居間・外出先)を想定したシミュレーションや避難訓練を継続して実施する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格などを考慮しそれぞれの方に合った対応をしている	呼び名は「さん」づけを基本としているが、利用者の希望で、より親しみを込めた呼びかけをすることもある。接遇研修を受け、言葉かけや対応に注意を払っている。個人記録は事務所に保管し、名前はイニシャルで表示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様な声掛けや思いを聞いて日々生活できる様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や言動を把握しご本人のペースで自己決定できる様支援します		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んでいただけるような声掛けをしている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが同席し会話をしながら食事をしている	高齢者に配慮した献立と食材、レシピは業者に委託しているが、利用者の希望を取り入れた誕生日会や行事食、月1回のお弁当の日など、出前料理も加え、食欲を高め、豊かな食卓になる様に工夫している。職員と一緒に食事を楽しみ、利用者は出来る範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分摂取量の把握や形態に配慮し水分量も把握している。食事のペースにも合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い歯科衛生士とも連携している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながら声掛けや誘導をしている	職員は利用者の生活リズムを把握して声掛けを行い、トイレ排泄を目標に支援に取り組んでいる。衛生用品の使用も一人ひとりの状態に合わせ検討し、不快感の軽減に努め、ドア越しの見守りなど羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	周回運動や昇降運動、テニスボールを利用しマッサージを自発的に出来る様になっている。すぐに薬に頼らず牛乳を提供するなど予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	その時の体調に合わせている。足浴しながらなど個々の楽しみに繋げている	入浴は週2回以上を目安に、午前中対応で支援している。浴室は3方向介助可能型で二人介助も行っている。入浴時は1対1の会話を楽しみ乍ら、視診による皮膚チェックも見逃さず、健康管理に繋げている。湯上り時には冷たい飲み物を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースに合わせた生活をして頂き体調や表情を読み取り休息して頂ける様な声掛けをしている。時には添い寝もあり一人一人の状況による支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携しスタッフが薬の把握をし、変更にも慌てる事が無いようにしている。すぐに確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた役割を見つけている。自主的に好きな事に取り組める様に支援している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の体調に合わせてご要望に添った対応をしている。	毎年、ドライブを企画し、花見、ラベンダー見学、紅葉狩りなど実施し、外食も楽しみ乍ら、季節を感じ気分転換を図っている。気候の良い時期は、河川敷を散歩したり、玄関先のベンチで日向ぼっこを楽しんでいる。個別対応で買い物にも出かけ、家族の協力で墓参りや帰省も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ベントや外出の際やお買い物の希望の時にご自分のお財布から購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人への電話を希望された時には対応したり年賀状のやり取りの支援等もしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度を見ながら調整している。トイレ内に長い時間使用する方の為に扇風機を設置したり一人一人の体感や体調に応じられるようにしている	木の温もりに癒される、ログハウスタイプの建物で、玄関入口にはスロープも設置され、車椅子対応になっている。各ユニットはバリアフリー設計で床暖房になっており、温・湿度に配慮されている。リビングは広く、明るく開放感が有り、回廊式廊下は歩行強化に適している。其々のユニットには季節のクリスマスグッズや利用者の作品、幼稚園児の作品など、数々飾られ、神棚や金魚鉢、観葉植物なども、利用者にとって、ほっと安らげる温かさが感じられる家庭的な環境を作り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	視線を感じないようにソファの置き方を変えたり会話やレクでコミュニケーションが取れるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が居室内を自由に工夫されている為一人一人の思いが込められた居室になっている	居室内の壁は木目調で、木のぬくもりを感じる。居室にはクローゼットが設置され、衣類や雑貨など整理し易くなっている。利用者や家族が揃えたベッドや家具調度品、テレビなど配置し、家族や友人との写真、趣味の自作品など飾り、自分らしい居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どう工夫したら出来る事になるかを考え支援しているので動線の確保や視界を考えて工夫している		